令和7年度　第1回　生駒市公益活動アドバイザー会議録

開催日時　　令和7年5月24日（土）　13：30～17：00
開催場所　　生駒市市民活動推進センターららポート研修室
出席者
（アドバイザー）　佐藤由美氏、田中晃代氏、土坂のりこ氏、山納洋氏（五十音順）
（事務局）　　地域コミュニティ推進課長　藤川、市民活動推進センター所長　大垣、
　　主査　髙田、係員　西田、ボランティアコーディネーター　池邨・宮平・森村
（傍聴者）　　なし

案件
1　座長の選出
2　地域活動応援補助金「まちのわ」について
3　地域活動応援補助金「まちのわ」の申請事業に対する助言

以下、発言要旨
案件1　座長の選出
　佐藤由美氏が座長に選出

案件2　地域活動応援補助金「まちのわ」について
　まちのわ応募状況について事務局から説明

案件3　地域活動応援補助金「まちのわ」の申請事業に対する助言
（1）一般社団法人　和草
【申請者とアドバイザーの質疑応答】
（アドバイザー）　2年前の助成事業では参加者数が伸び悩んだとお聞きしていますが、昨年度はどのような取り組みをされましたか。
（申請者）　　昨年度も本人にフォーカスして活動していましたが、参加のハードルの高さを感じました。今年度は本人だけでなくその家族も対象にすることで、参加者を増やせると考えています。
（アドバイザー）　綿作りと味噌作りのスケジュールを教えてください。
（申請者）　　大豆の種まきをこれから行い、年度内に収穫と味噌の仕込みまでを終わらせたいと思っています。
（アドバイザー）　参加費が1人500円設定の考え方を教えてください。材料代にも満たないのではないですか。
（申請者）　　誰でも気軽に参加できることを重視しており、参加費は抑えたいと考えています。法人全体としては地域食堂の運営収入で支え、予算の融通を図っています。

（アドバイザー） 他都市では重層支援体制や引きこもりの方への寄り添い支援窓口が充実してきています。生駒市にも同様に窓口があると思いますが、行政との連携状況はいかがですか。

（申請者） 病院から紹介してもらっていることと、行政の窓口とはある程度接点があります。しかし、連携は今後さらに強化していく必要があると感じています。

（アドバイザー） 参加された方にはどのような反応や変化がありましたか。再び社会へ出ようとする動きはありましたか。

（申請者） 気持ちが晴れた、安心できたという言葉をもらいました。ただ、社会復帰にいたったというケースまでは最近確認できていません。

（アドバイザー） 家族の方との接点はこれまでもありましたか。

（申請者） 20代の参加者が保護者と一緒に来てくださった例があります。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇事業内容については問題ないと思われるが、生駒市の重層的支援体制を担当する課との連携をサポートする必要がある。市内ではひきこもりに特化した支援事例が多くはないので、活動の必要性は高いのではないか。

◇「地域に出るきっかけ」をつくっておられるので、参加者の社会復帰や就労など、次のステップへの橋渡しの仕組みづくりも視野にいれていただきたい。

◇本人だけでなく家族を巻き込んでひきこもりの改善を図るためには、行政と連携して当事者家族へとつなげていく必要がある。

◇地域の声掛けの力が試される段階にある。ひきこもり支援の実効性を高めるには、農家の方や自治会とのネットワークを作り、地域全体を巻き込む展開が望まれる。

（2）一般社団法人 IDS

【申請者とアドバイザーの質疑応答】

（アドバイザー） 平時のキッチンカーの事業拡大の視点と災害時の支援をかけあわせた点、特に日常的な住民とのコミュニケーション・信頼性向上に重きをおいた点は良い着眼点だと思います。活動の認知度を高める方法としてビラの配布はどれだけ効果があるのでしょうか。

（申請者） ビラは、自治会内での回覧や、地域住民が一堂に会するイベント会場などでの配布になります。ビラ単体での効果は限定的ですが、自治体イベントでの出店により、災害時にもキッチンカーが来て、食料を提供するというイメージを与えることが出来ると思います。

（アドバイザー） 7月から9月にかけて自治体の夏祭りにキッチンカーで参加することが貴団体の取組の周知に係るポイントとなってきますが、実現の見通しはありますか。

（申請者） すでに参加が決定しているお祭りが2つありますし、そこからひとつずつ実

績を積み上げていこうと思っています。

（アドバイザー） どこの地域にどのキッチンカーを配置するかなど、役割分担はどうしていますか。

（申請者） 市役所の危機管理課や自治会との相談になりますが、災害避難が長期化したときに必要とされる温かい食べ物の提供やメンタルヘルスケアにつながればよいと考えています。

（アドバイザー） 災害時に自分たちの家がどうなっているかもわからない中でも、食材や費用について対応できる事業所が集まっているということが生駒市との提携協定で決まっているのでしょうか。

（申請者） ガソリンや水などの最低限のストックを私たち事業者が確保しておき、それ以上の費用は市に負担していただくことになっています。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇事業を続けていくための基盤として、地域に根ざした活動をしていただきたい。

◇経費積算の根拠があいまいな部分があるので、再度検討いただきたい。

◇自治会との連携による「防災まちづくり」に展開するきっかけづくりを3年構想で進めていくことが期待される。

◇生駒市は高い自治会加入率を誇るが、自治会未加入世帯や障がい者世帯、子育て世代などにもアプローチできる多様なチャンネルの確保も課題である。

（3）スキマダンスクラブ

【申請者とアドバイザーの質疑応答】

（アドバイザー） テレビでも取り上げられ、注目されている取り組みですが、参加された方々にはどのような変化がありましたか。

（申請者） 人生が良い方向に変わる方が多いです。特にお母さんたちは、「自分の育て方が悪かったのでは」と自責の念に苦しんでいますが、ダンスを通じて自分自身を取り戻すことで表情が明るくなり、元気と自信を取り戻されます。そうした親の変化が、間接的にこどもたちにも安心感や主体性をもたらし、家族全体が変わっていきます。このプロジェクトは、大人が自分を解放する姿を通じて、こどもにもよい影響を与えるプロセスを大切にしています。

（アドバイザー） 不登校のこどもたちへの支援として、この取り組みが「うまくいった」と言えるのは、どのような状態になることでしょうか。

（申請者） ゴールは設定していません。学校に行けるようになることを着地点とは考えておらず、数値化できる成果よりも、本人の表情の輝きや楽しそうな様子を重視しています。

（アドバイザー） 報償費として約7万円が計上されていますが、具体的にはどのような方への支払いですか。

（申請者）　私はあくまで場を提供している立場です。世界を広げるために、さまざまな講師を招いており、先日は鳥取からユニークな講師を招きました。補助金を活用して、これまでできなかった多様な出会いを生み出し、こどもにも大人にも「面白さ」を届けたいと思っています。

（アドバイザー）参加者の募集や広報は、どのように行っていますか。

（申請者）　SNSによる発信を中心に行っています。私は本業が映像関係なので、YouTubeやInstagramを活用し、映像表現を通じて魅力を発信しています。全国的なネットワークともつながっており、元気になった方が次に誰かを助けるようになる循環も意識しています。

（アドバイザー）活動が全国に広がっている一方で、「生駒でやっていること」の意義がやや見えづらい印象もあります。生駒における不登校の課題を捉える視点を持ってもらいたいです。

（申請者）　市民がつくる活動として地域に根づくことを目標としています。生駒のまちに拠点を置く意義も含めて、今後さらに伝えていきたいです。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇取り組みの全体像がやや見えづらい。不登校の問題を扱うのであれば、「何が問題で」「どうなれば解決なのか」という視点をもち、活動内容とともに今後の活動の中で明確にすべきである。

◇成果を「人生が変わった」という言葉だけで説明するのは、他者に理解されにくく、目標としても不十分である。数値化以外の多様な成果の捉え方を検討する必要がある。

◇芸術の力が心理的課題の解消に寄与することは多くの事例で実証されており、ダンスによる解放感には意義があるが、揺り戻しによる心理的な落ち込みが起きる可能性もある。学校や保護者との連携の道筋、地域資源との循環的な関係性を示すべきである。

◇現時点ではクラウドファンディングや民間助成金の活用が、活動の自由度や継続性において適している可能性がある。補助金が制約となる場合は、他の資金源を模索してもよい。

（4）おはなしかい.奈良

【申請者とアドバイザーの質疑応答】

（アドバイザー）命の尊さを伝える活動は大変意義深いと感じます。ただ、産む場所を助産院に限定するのではなく、医療との関わりが強い高齢出産なども含め、多様な選択肢の一つとして伝える構成が望ましいと思います。どんな地域課題をどう解決したいのか、方向性を教えてください。

（申請者）　写真展では病院や帝王切開での出産写真も展示する予定です。地域課題としては、現在妊産婦の死因1位が自殺という深刻な問題があります。孤独や不安を抱える妊産婦にとって、人と人とが出会い、つながる場をつくることが命を守る一歩になると信じています。

（アドバイザー） 理念には共感しますが、写真展を通じて地域にどのような変化をもたらしたいのか、到達目標が見えづらい印象があります。どう考えておられますか。

（申請者） 写真展はギャラリーに限らず、人が集まるカフェやこども食堂のような場所でも開催可能です。写真をきっかけに人とのつながりが生まれる場にしたいと考えています。孤立から少しでも救われることは、将来的に産後うつや児童虐待の予防にもつながると考えています。

（アドバイザー） マタニティブルーや産後の孤立によって自殺や虐待につながる構造に対して、どのような効果を想定されていますか。

（申請者） 「人と出会うこと」が最初の一歩だと思っています。助産院でおにぎりを作って食べるといったシンプルな活動をしていますが、人と話すことで気持ちが楽になったという声が多くあります。そうした出会いのきっかけをつくるのが私の活動です。

（アドバイザー） 妊産婦の死因1位が自殺という現状を共有していくことで、活動の意義もより伝わると思います。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇申請者の理念や思いには共感できる。助成金という公的資金を用いる上では「なぜこの活動が地域課題に資するか」「何を目指しているのか」という点を明確にする必要がある。

◇写真展の開催が目的ではなく、それを通じて誰のどんな状態をどう変えたいのか、他者に伝わりやすいように言語化し、社会的意義を示す必要がある。

◇妊産婦の死因1位が自殺という重大な課題に向き合っている点は評価できる。産後うつや児童虐待の予防という側面と結びつけた説明を強化すれば、説得力が増す。

◇活動内容は非常に可能性がある。だが、申請者はまだロジカルな構造整理や課題の言語化に慣れていない様子が見受けられる。

◇同じ課題意識を持つ仲間とのネットワークづくりが急務である。現在はご本人の情熱に依存しており、組織基盤としては脆弱である点が懸念される。

◇助産院という一拠点から視点を広げ、「どこで産んだか」に関わらず、出産後の孤立や不安にどう寄り添うかをテーマにしたアプローチへ展開することで、より公益性が高まり、多様な支援との連携も生まれる可能性がある。

（5）シフクノプレイス

【申請者とアドバイザーの質疑応答】

（アドバイザー） こどもたちが挑戦して、体験して、多様な大人と話せる場所が地域にあるのはいいですね。メンバーの7人はどういった方々で、今後チームはどうなっていきたいと考えておられますか。

（申請者） メンバーは参加されているこどもの保護者です。この活動に賛同している大人の「やってみたい」ことが増えていけば規模も大きくなって、経験できるこ

どもたちも増えていくと思います。

（アドバイザー） すでに仲間が7人いらっしゃることが素晴らしいですね。同じ方向に向かうチームになっておられるのですか。

（申請者） そうです。企画立案のときから相談していますし、終わった後は、こどものたちの感想もフィードバックしてくれます。意見交換しながら、次回の企画も考えています。

（アドバイザー） 収支予算の保険料8，000円×4 回は何の保険ですか。

（申請者） 食中毒に対応する保険です。

（アドバイザー） この活動を知ってもらって、参加してもらうことが必要です。例えば自治会館や地域の公共施設を使うことによって会場費が抑えられ、活動を長く続けられると思うのですが、そういったご検討をされる可能性はありますか。

（申請者） 南コミュニティセンターせせらぎの会議室も調べましたが、あまり費用は変わりませんでした。シフォンケーキを作って売るための動線が良いところを検討して、「キッチン突き当たり」という保健所の許可を得ている店舗のキッチンを借りています。食中毒の問題に関しても、移動が少ないほうが安全かと思いますので、当面は「キッチン突き当たり」をお借りして、活動が軌道にのれば公共施設にも広げていきたいと考えています。

（アドバイザー） 例えば地域のお祭りに出展してみたり、サロン活動の1ブースでやってみたりといったPRの仕方もあるように思います。皆さんこういった活動を望んでいらっしゃると思うので、連携先はたくさんあるはずです。協力先を広げることにも、ぜひ目を向けてください。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇着実に地域のこどもたちのために活動しておられ、課題も少ないように見受けられる。すでに仲間も見つけて、こども達がやりたいことを応援されているので、このまま頑張ってもらいたい。

◇上手にご自分のキャリアを活かして活動しておられる。多くの方の力がこの活動で活かせるように、チーム作りのスキルやノウハウを学ばれたら、こどもたちが大きくなった時にもみんなの熱意が継続するかもしれない。

◇一人でも多くのメンバーが「自分たちのこどものため」を「地域のため」に転換できればと思う。

◇こどもを介せば、地域の関係はつくりやすい。違う世代、異なる立場の人の参加促進が、こどもたちの視点を広げ、活動自体の安定化につながるのではないか。

◇同じ小学校区で開かれるイベントのときに同時にやってみても広がるのではないか。

（6）生駒南第二小学校 果樹園プロジェクト

【申請者とアドバイザーの質疑応答】

（アドバイザー）　生駒市では自治会がしっかり活動されており、地縁型組織が地域の基盤になっている印象です。萩の台地区も非常に活発に活動をされていますが、今後、そうした地縁型組織と学校や他団体といったテーマ型の組織との連携が課題になるものと思われます。今回の取り組みではどのような連携を図られていますか。

（申請者）　学校とは定期的な打ち合わせをしており作業の主体は私たち地域側です。スケジュールや内容も自然との兼ね合いで決まるため、学校側が柔軟に対応してくれる体制が整っています。この活動は、将来的には6次産業化も視野にいれ、こどもたちと果実の活用や商品化にも取り組むことも描いています。

（アドバイザー）　資料を拝見すると、小学校に関わっておられるボランティアの方が77名と非常に多いですが、参加の秘訣やモチベーション維持の工夫はありますか。

（申請者）　明確な秘訣があるわけではありませんが、「これはできる」「これは無理」というように、個々の得意を活かせる活動の選択肢を用意しています。作業メニューが多いので、さまざまな方が関われるのだと思います。

（アドバイザー）　6次産業化の構想について、具体的に販路などは考えておられますか。

（申請者）　現時点では地域内での小規模な展開が中心です。昨年は収穫量が少なく、仲間内で集めたレモンも集めてこどもたちにレモンケーキを作ってもらいました。一定の収穫が実現すれば、今後は地域にある事業所などと連携して展開していきたいと考えています。

（アドバイザー）　非常に多彩な活動を展開されていますが、その背景にはどのような土台や人材育成の工夫があるのでしょうか。

（申請者）　空き地活用の勉強会をきっかけに、「楽しいことをして良い街にしたい」という思いが広がりました。スタッフとの信頼関係や役割分担ができていることが継続の要だと感じています。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇課題はなく、申請内容も実行体制もしっかりされている。支援型の地縁組織が活動の軸にあることで、地域に根差した持続可能な取り組みが可能となっている好事例である。

◇長期にわたる自治会長の在任と、組織内の役割分担の明確さが活動の土台を支えている。このような組織基盤の強さは、他地域では容易に再現できない点かもしれない。

◇自治会活動の枠を超えて、多世代交流や学校連携といった展開をしていることが、この地域の独自性を示している。本事例のような成功モデルを他の自治会に紹介し、地域間でノウハウ共有を図ることや活動の事例の少ない自治会へのアプローチが今後の課題である。

◇ボランティア団体と地縁組織との連携を円滑に行うためには、自治会側が外部の人材や団体を受け入れる姿勢が必要。本団体のように柔軟な姿勢を持つ地縁組織が増えることが、地域活性化において重要である。

（7）真弓ロビンズ

【申請者とアドバイザーの質疑応答】

（アドバイザー）　現在、部活動の地域移行が進められていますが、不透明な点もあるとのことでした。現場の状況について、どのように把握されていますか。

（申請者）　ハンドボールに関しては、チームが「まだある」という理由で地域移行の準備が進んでいない状況です。しかし実際には、部員数は減少しており、指導者の異動によって専門性が継承されにくくなっています。今年度は、経験のある先生が異動され、顧問は外部から通っていますが、現在の担当は未経験者です。こどもたちは「その先生がいるからやりたい」と思って入部しているのに、指導環境が大きく変わることで、継続への不安を抱えています。また、中体連（公益財団法人日本中学校体育連盟）の全国大会が廃止される動きがあり、これまでモチベーションになっていた大会への出場機会が減ることも、こどもたちや指導者の意欲に影響しています。ハンドボール協会主催の別大会に統合される動きはありますが、現場の納得感は得られておらず、地域のハンドボールの未来に不安を感じています。今後、生駒市内でチーム数が統合されて減少するという噂もあり、こどもたちからは「どちらのチームに入ればいいの？」という声も聞こえています。こうした状況の中で、制度が突然切り替わってからではなく、事前にクラブチームを立ち上げておくことで、こどもたちが安心して継続できる場を用意したいと考えました。新しい場所に突然移るのではなく、「あのチームなら知っている」と思えるような、顔の見える継続的な活動を行うことが大切だと思っています。

（アドバイザー）　選手コースとスクールコースで参加費に違いがありますが、これはどのような違いによるものでしょうか。また、指導にあたる方々はどういった方ですか。

（申請者）　登録制度の違いによって、活動の範囲が異なります。中体連に登録しているこどもたちは、クラブチームには登録できず、試合出場が制限されます。そのため、スクール的に参加する形と、クラブチームとして登録して活動する形で費用が変わっています。指導するのは、かつて小学生チーム「真弓クラブ」で活動していた経験豊富な4名です。中学生にも指導することに同意してくださっており、技術面でも安心して任せられる体制を整えています。

（アドバイザー）　現在活動されている4名のスタッフは、いずれも真弓クラブに関係のある方々ということですね。

（申請者）　そのとおりです。小学生のチームで長く指導してきた中から、クラブチームでも教えてもよいという4人が中学生にも対応しています。

（アドバイザー）　地域移行が進んだ後、この活動はどのように発展していくとお考えですか。

（申請者）　現在の中学校部活が縮小され、例えば市内に2チームしか残らないという状況になった場合、私たちのクラブが3つ目の受け皿になれると思っていま

す。こどもたちにとって「ここなら続けられる」と思える受け皿になりたいと考えています。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇不確定な状況の中で、こどもたちのために準備している姿勢は前向きであり、よく頑張っておられると感じた。組織の立ち上げや制度の整備については判断できないが、他地域の動向や状況を注視し続ける必要がある。

◇現行制度上では補助対象として問題はないが、今後この類の申請が急増する可能性も踏まえ、来年度以降の取り扱いについては関係部署と協議し、明確な方針を定める必要がある。

◇学校が担っていた部活動を地域に展開することで、最も影響を受けるのはこどもたちであり、次いでそれを支える地域の大人たちである。こうした仕組みの中で自主的に動き出す行動は自然であり、十分に意義がある。

（8）NPO法人 こどもゆめひろば

【申請者とアドバイザーの質疑応答】

（アドバイザー） 練習会が3回、発表会が1回という構成では、初心者が入りづらい印象もあります。この活動は今年限りのものなのか、それとも継続的に育てていくお考えでしょうか。

（申請者） 将来的には練習回数も増やしていきたいと考えています。特に、部活動の地域移行が本格化し、平日の音楽活動が失われた場合は、土日の練習や演奏指導の場として機能できるよう、市内の中学校音楽室などを借りて、継続的な活動を見据えています。

（アドバイザー） 今年度の運営にあたっては、30万円以上の自己負担があるとのことですが、資金面の課題にはどう対応される予定ですか。

（申請者） 経費面では非常に苦慮しており、打楽器のレンタル回数を最小限にし、ティンパニなどは本番直前のみ借用することでコストを抑えています。また、練習会場についても、できるだけ費用の安い公共施設や学校施設の利用を検討しています。

（アドバイザー） 学校の楽器を活用するとのことですが、どのように確保されていますか？

（申請者） 学校にある吹奏楽部の楽器をお借りしたり、法人メンバーが所有する楽器を持ち寄ったりしています。また、使われていない学校楽器の修理も、団体メンバーにリペアできる人がいるので、部品代のみで行い、初心者にも貸し出せるよう整備しています。

（アドバイザー） 集まっているメンバーの背景は。 他都市との比較はされていますか。

（申請者） 吹奏楽の一般バンドや地域バンドの仲間で、ほとんどが中学吹奏楽部出身です。他都市の状況も情報収集しており、自治体によって対応はさまざまで

す。

（アドバイザー）　この活動は生駒市だけで行う予定ですか、それとも他の地域にも展開する可能性はありますか。

（申請者）　お声がかかれば、その地域に応じて活動を展開することも考えています。複数地域で同時並行の可能性もあります。

【アドバイザーからの意見・助言】

◇不確定な状況の中で、「今動かないとこどもたちが困る」と動き出した姿勢に敬意を表したい。現場で奮闘していること自体に大きな意味がある。

◇地域移行のゆがみが浮き彫りになっているのではないか。全国的に文化系部活動の支援体制は運動系より遅れており、構造的課題を反映している。

◇こどもたちの機会確保という点で、今このタイミングでの支援は妥当と考える。

◇この活動が、学校が担っていた部活動の受け皿となり得る点は注視すべきではないか。今後は、教育委員会など関係部署との情報共有・現状把握の検討が必要である。